

## My Polaris 清水院長の ポラリス

ポラリス(北極星)を目指すには  
北極星を見分けること。  
目指すところ(方向)は一緒でも  
やり方はそれぞれ多種多様。  
一人一人の思いをエッセイの形で  
伝えたい。

# ときめき Beating Kashima 鹿島

院長 清水 保孝

2017年、新春を迎え、お慶びを申し上げます。

近年長寿高齢化の進展に伴って、高齢者の医療そして生活が大きく変化してきました。鹿島病院も慢性期病院から亜急性期診療を含めた入退院の激しい病院に年々変化してきました。入院診療のみならず、在宅を含めた地域包括ケアシステムの充実が求められる時代になってきました。当院におきましても2017年には地域包括ケア病床を開設して、亜急性期診療を展開するのみならず、それぞれの患者さんの在宅への道を開き、在宅での円滑な生活を提供できる診療をさらに充実させていきたいと考えています。

当院ではもともと多職種が連携しながらカンファレンスや在宅支援を行ってきております。本年は地域包括ケア病床を開設するとともにさらに地域の他施設との連携を充実させて、各々の患者さんの入院医療と在宅介護を円滑かつ、包括的に展開するシステムの中核を当院が担っていこうとするものです。

未曾有の超高齢化社会を迎え、当院が松江市橋北地域での地域包括ケアシステムを構築し、展開していけるように、一丸となって努力していく所存です。

本年も御支援、御協力の程、よろしくお願い申し上げます。



# 今年の抱負



## 看護部 大込加奈



私は2年間通った看護学校をこの春卒業します。厳しかった実習も終わり、後は資格試験に向けて頑張るのみです。仕事と学業の両立はとても苦しく、「もう辞めたい…」と何度も弱音を吐くなか、病棟の皆様には勉強を教えてもらったり、「後少し!!」と背中を押してもらいここまで来ることができたと思います。

2017年の目標は、2月にある資格試験に合格し准看護師免許を取得すること、そして准看護師として働かせて頂き1つ1つ技術を身につけていくことです。

介護職として学ばせてもらったこと、また学校でのたくさんの学びを活かして、1歩1歩成長していきたいと思っています。

## リハ部 景山晋一



気付けば早いもので年男を迎えました。12年前の年男の時はパソコンインストラクターとして働いており、自分が理学療法士を目指す事になるとは思ってもみませんでした。それから12年経ち、この春で鹿島病院に勤めさせて頂き丸8年になります。病棟で4年、通所で4年になりますが、良い環境に恵まれて仕事をさせて頂いてきました。この先の12年も、人としても理学療法士としても成長していけるように研鑽していきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

## 看護部 糸川佳子



新年明けましておめでとうございます。鹿島病院に入職して10年が経ちました。昨年は、家庭菜園に目覚め、あれこれ育ててみるもごとごと失敗し、花なら大丈夫だろうと思い、色々植えてみるもそのうち水やりをしなくなり、枯らしている始末です。今では私のしなくなった水やりを、見かねた家族がせっせとしてくれています。そんな周囲のサポートのおかげで、元気に楽しく過ごすことが出来ました。今年もチャレンジ精神を忘れずに日々成長していきたいと思っています。宜しくお願いします。

## 診療部医師 田井道夫



36歳(数え年)の12月5日、カンボジア難民救援活動を終えて、バンコクから帰途に就いた折、この飛行機は落ちるかもしれないと思ったことを思い出している。なんとなれば、その日は、同じ年で昇天したモーツァルトの命日だったからなのだ。生き延びてさらに36年。年男の抱負を書く注文を受けることになろうとは。

「60、70は鼻たれ小僧」と言ったのは彫刻家平櫛田中。あと36年を足せばぴったり、かの大家の没年と、計算上一致する。天才でも晩成の巨人でもない身に、抱負などあるはずもないが、ささやかな願いは、当然ある。ささやかなは ひそやかなでもあって、人には言えない。もう一度、年男を迎えることなどはまずないので論外であるが…。

## リハ部 田中優



新年明けましておめでとうございます。この度、社会人となって2度目の年男を迎えました。社会人としての最初の年男は、長崎県佐世保市でデイサービスの介護職員として働いている時に迎えました。それから12年。地元に戻り、専門学校へ入学し、理学療法士の国家資格を取得し、岡山県での仕事を終えて、現在鹿島病院でお世話になっています。この12年たくさん寄り道はしましたが、周りの人たちの支えがあったからこそ、現在の自分があると強く感じています。その事に感謝し、恩返しをしていくことが、私の今年の抱負です。

## 看護部 仁井美香



新年明けましておめでとうございます。入職して早いもので3年が過ぎました。私の今年の抱負は元気に楽しく毎日を過ごすことです。まあ、仕事とプライベートにメリハリをつけてゆきたいと思っています。年末に良い年であったと思えるような1年にしたいです。今年も皆様よろしくお祈りします。

## 看護部 森脇真純



今年、2月で60歳になります。引き続き勤務しようと思っています。だんだんと老化現象が出てきて、物覚えも悪くなり必ずメモを取らないと大変なことになります。こんな状況ですが、まずは、心と身体が健全でないと仕事と家庭が両立できないので上手にストレスを発散するよう友人、家族の協力を得ながら、一年を送りたいと思っています。長男家族が近所に住んでいるので、孫の成長を見ながら関わっていきけるのも、私にとっては喜びの一つです。外来NSとして色々な部署の方々と良いコミュニケーションをとりながら頑張ろうと思っています。こころに少しゆとりがあるような日々がおくれるといいな〜と思います。

## 診療部 森脇恵美子



明けましておめでとうございます。節目を迎えた今年は、特に健康維持を目的に、自転車通勤を考えています。また、運動も継続し、体も心も柔軟に、仲間と一緒に毎日を笑顔で過ごしたいと思っています。今年もどうぞよろしくお願い致します。


**看護部 片平栄子**

子育てが一段落し、再就職したのがここ鹿島病院です。結婚して家庭に入った自分にとっての12年振りの医療現場はというと、電子カルテはもちろんのこと、褥瘡ケア、CVポートの管理など初めて知ることばかりで、毎日が驚きと不安の連続でした。そんな自分が、8年以上もこうして働き続けることができたのは、ひとえに院長先生をはじめ、現場スタッフの皆様のご指導と励ましのおかげだと、ただただ感謝しております。本当にありがとうございます。今年も少しでも皆さまのお役に立つことができるよう、精一杯頑張りたいと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。


**看護部 仁宮優子**

昭和32年7月7日、かに座、血液型B型の年女です。入職してから15年以上が経ちました。長い様な、短い様な…東洋医学では、女性は7の倍数、男性は8の倍数が体の変化が起こりやすく要チェックの節目だそうです。体調に気を配り元気に日々過ごしたいと思います。この元気を患者様にもおすそ分け出来るといいなと思っています。そして回復期病棟でのスタッフに出会えた事、共に仕事ができる事に感謝し精一杯勤めたいと思います。


**診療部 谷本邦枝**

今年は私にとって5回目の酉年となり、お陰様で還暦を迎えることになりました。六十にして耳順(みみしたが)う歳は、そのまま耳順(しじゅん)とか、本掛還り(ほんかけがえり)と言われるそうです。その歳をこうして元気に迎えられることはとても有難く、お世話になった多くの方々への感謝の気持ちでいっぱいです。その反面、「還暦＝定年」というのが少しの寂しさや、一抹の不安を憶えます。これからの人生、鶴のように美しく優雅に舞うような人生にし、皆様に何か恩返しが出来たら良いと思っています。今後ともよろしくお願い致します。


**診療部医師 戸田博敏**

鹿島病院に勤務して学んだことはと問われれば、第一に挙げられるのは、ある人から「仕事はコミュニケーションでしょ」と教えていただいたことです。ちょっとした衝撃でした。コミュニケーションは仕事上、大事、大切を通り越して、仕事そのものだと。今では「生きることはコミュニケーションでしょ」だと思っています。もう?!、まだ?! 還暦ですが、まだまだコミュニケーションに精進したいと思っています。よろしくお願い致します。


**在宅サービス部 大和飛鳥**

年を重ねるごとに低下を感じていく体力や筋力…。改善するために始めたジョギングですが、気が付けば趣味の一つになっていました。2016年はハーフマラソン3回(沖永良部島、中海ハーフ、沖の島)等出場し、全て無事に完走することが出来ました。今年の目標は、夢の1つとなったフルマラソンに出場し、無事完走しきりたいと思っています。仕事、プライベート共に充実した年を過ごしたいと思います。


**看護部 宮廻由紀**

あけましておめでとうございます。私の今年の抱負として、以前回復期に配属されていた時に始めたジム通い。熱しやすく冷めやすい私が趣味以外で唯一続けているものですが、最近ではなかなか運動に通う事が出来ず、体力低下を痛感しています。今年も趣味に仕事に頑張る為、一回でも多く運動に通い、体力アップを目標に頑張りたいと思いますのでどうぞよろしくお願い致します。


**リハ部 山成大治**

今年、年男となりました。月日は早く過ぎると感じます。一日一日を大事にして過ごして行きたいと思っています。減量(ダイエット)は続けて行い、趣味を活かせるためにも仕事にも励みたいと思います。


**看護部 渡部英子**

新年明けましておめでとうございます。鹿島病院に入職18年目、外来看護師として2年目を迎えました。そろそろ『外来、渡部』に馴染んでいただけた頃でしょうか?今年も地域の皆様に愛される病院であるよう努力していきたいと思っています。また小学4年生になるサッカー少年の子育てとの両立も頑張らねばと思っています。ちなみに今年の月曜・水曜日の外来診療は、酉年×3人です。(今回の原稿依頼があって知りました。なんだかちょっと感動!!)

## 日本慢性期医療学会in金沢

看護部 佐々木季実子



平成28年10月27日、28日に石川県で行われた日本慢性期医療学会in金沢、慢性期医療と作る未来—医療・介護とまち・ひと・しごと—に診療部2名、事務部2名、リハビリテーション部1名、看護部2名が一般演題3題を発表しました。3階病棟からの「安全な服薬自己管理に向けて～アセスメントシート、フローチャート、チェックシートの効果～」は医療安全、事故対策での発表となりました。会場は始めのうちは空いていましたが、発表が進むにつれて、会場に入れられない人もいようになり、多くの人がこのテーマに対して意識を持っているんだと思いました。

今回は、少し離れた2ヶ所の会場で行われ、地下1階から4階まで移動しました。自分の興味のある演題を聞くため時間を見ながら大変でしたが、新しい知識や他職種の考え方を知ることが出来、とても充実した時間を過ごさせて頂きました。

## 回復期リハビリテーション病棟協会主催 第21回ソーシャルワーカー研修会

医療相談部 安達亜希子



東京で2日間の日程で開催されたソーシャルワーカー研修会に参加させていただきました。回復期病棟を担当する専従ソーシャルワーカー向けの研修で、全国から135名の回復期病棟のソーシャルワーカーが集まり、講演やグルー

プワークを通して専従ソーシャルワーカーの歴史や役割、エコマップを活用した援助方法について学びました。参加者の経験年数も初任者からベテランまで幅広くグループワークや懇親会での交流で、他病院でのソーシャルワーカー業務や支援方法など情報交換ができとても参考になりました。研修では普段意識していなかった視点に気付かされたり、退院支援で活用できる援助方法を学ぶことができました。今後よりよい支援ができるよう業務に活かしていきたいと思います。

## 臨床研修を終えて

松江赤十字病院 研修医2年目 永瀬久仁



1ヶ月間鹿島病院で研修させていただきました。

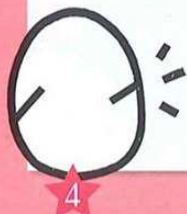
しばらくはかなり緊張しながら毎日過ごしていましたが、皆さん優しく色々なことを教えていただき、後半は楽しく研修することができました。

松江日赤など急性期病院で研修していると、他の職種の方と接する機会が比較的に少ないように感じます。鹿島病院で多職種でのカンファレンスに参加する中で、今まであまり気にしていなかった食事内容や入院中の生活、口腔衛生などが患者さんにとってはかなり大きな問題だと気がきました。また、患者さんの転院を受ける側になって

みて、紹介状を分かりやすく、正確に書くことの大切さも実感しました。

リハビリですが、鹿島病院のリハビリ室は薬局にも近く、オープンな雰囲気なので入りやすく、何度かリハビリの様子を見学したり、訓練内容について教えていただきました。今までリハビリ室は何となく敷居が高かったのですが、今回近くでリハビリを見ることができていい機会となりました。

慢性期病院としての研修だけでなく多くのことが学べた1ヶ月となり、また、たくさんの方にお世話になりました。ありがとうございました。来年も松江日赤にいる予定なので今後もよろしくお願いします



## 地域連携室便り 53

「在宅医療連携を深めるために」  
第2回勉強会

医療相談部 小林 裕恵



今年度、鹿島病院は「島根県在宅医療に関する病院の体制整備事業」の一環として「在宅医療連携を深めるために」というテーマで勉強会を行っています。8月の勉強会に続き、12月1日、第2回目の勉強会を行いました。講師には松江市島根支所市民生活課の保健師、高野美智子先生をお招きしました。

保健師とは保健指導に従事する専門職で、保健所や保健センター、地域包括支援センターなどに勤務して、高齢者の病気やけがの予防に重点を置いた健康管理、指導を行うのが主な仕事です。高野保健師は島根町に勤務して11年目です。

鹿島病院に入院されている患者さんには島根町の方も多く、私たち相談員も出かけることも多い地域です。今回、高野先生には島根町の地域の特徴や抱える課題、地域包括ケアシステム作りに向けての取り組みなどをお話していただきました。以下その内容を紹介します。

島根地域は、豊かな海に囲まれて半農半漁として繁栄してきました。しかし、近年のライフスタイルの変化などにより若者の地域外流出が進み、現在では少子高齢化や人口減少が地域の課題となっています。人口は現在3,151人、高齢者人口1,254人、高齢化率は40%に届く勢いです。一方、0歳児は17人です。島根町の抱える問題は次のようにまとめられます。

## ◎少子高齢化・人口減少（独居・高齢者のみ世帯の増加）

## ○次世代の担い手不足

- ・活動の休止、継続についての不安
- ・耕作放棄地の増加

## ○コミュニティ崩壊の危機感

## ◎ひきこもり

- 家族が相談しやすい「まちづくり」が必要

## ◎認知症

- 老老介護、地域での見守り体制が必要



これらの問題に対処するためには、地域の持つ資源を総動員し活動にも取り組んでいく必要があります。それらの資源とは次のようなものです。自治会連合会、高齢者クラブ、ボランティア協議会、食生活改善推進協議会、健康まつえ21島根地区推進隊、民生児童委員、福祉推進員、保健協力員、市社会福祉協議会、松東地域包括支援センター、要配慮者支援会議、高齢者の医療や介護にかかわるなごやか寄り合い事業など。また、医療機関として内科医院、歯科医院、そして、小学校、中学校という教育機関があり、福祉機関として、保育所、養護・特養等高齢者施設、作業所等の障がい者施設があります。さらに、当然のことですが、地域には福祉に直接かかわらないさまざまな民間の会社や商

店などがあります。こういった地域の資源を全体としてうまくコーディネートすることによって、前述の問題を解決していかねばならないのです。

お話の中で特に興味深かったのは、「ついでに流通事業」という活動でした。これは、島根町の民宿でお弁当を作り、宅配業者に配達を依頼、配食弁当の必要な世帯にドアToドアでお弁当を届けるというものです。こういった民間の事業所も含めた地域の資源を総動員して行う事業は、これからの地域医療・介護の世界ですますます重要になると感じました。

ところで、島根町では昨年3つの診療所のうちの1つが閉院となりました。そのことで、高齢者が多い地域で、往診医が少ない状態に陥ったそうです。2年前から歯科衛生士やリハビリのスタッフをなごやか寄り合いの活動に派遣し、介護予防などの活動をサポートしている鹿島病院は、この地域のそんな状況を救ってくれる病院ということでした。鹿島病院への住民のイメージはよく、これからも、地域を支えていくため、医療、介護、リハビリなどの面で鹿島病院に協力をお願いしたいということでした。

以上がお話の内容ですが、保健師という立場から、長い間住民の皆さんと直接接し、地域の資源について熟知している立場からのお話だったと思います。

お話を聴いて、思ったのは、私たちは地域のことを知っているようであまりわかっていないということです。地域は単なる「エリア」ではないこと、地域の医療者や介護者は、地域の資源をしっかりと把握しなければならないということ、お話を伺って痛感した次第です。

参加者からは次のような感想が述べられました。

○「島根地区を中心とした地域、行政の取り組みについて知ることができた。鹿島病院の立ち位置、見方など客観的にみることができた。地域貢献事業の取り組みの意義が見いだせた」

○「地域の為に様々な取り組みをされていると感じました。多職種が連携して住民を守り活かしていくことが大事だと思いました」

○「地域でも組織的に色々な取り組みをしておられ、大変参考になりました。病院でも地域の事を考えながら退院支援をしていきたいです」。

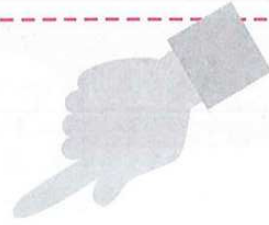
○「〈住み慣れた地域で元気に過ごす〉、〈地域で支え合う〉、〈必要なことを自分たちで作りあげる〉が実際に行われていると思った。それは、短期間では作りあげることはできず、様々な尽力が必要であったと思います」、「これからの高齢者社会のモデルとなると思います。そのネットワークの中での鹿島病院の役割を考えていかなければならないと思いました」。

有意義な講演をしてくださった高野美智子先生に、深くお礼申し上げます。





## 豆知識



# 介護保険料は都道府県によって違う?!

介護保険法令遵守責任者 金津 洋

介護保険料は40歳以上の方が納めることになる保険料です。

なぜ40歳以上かというと、40歳以上からでも疾患及びその人の身体状況によって(脳血管疾患、脳卒中により介護が必要な人、特別に厚生労働大臣が定める疾病の人)、介護保険を利用が出来ること定められているからです。

毎年、各都道府県の介護保険課が全体の介護保険料を決定します。そのうち25%を国、12.5%を都道府県、市区町村が12.5%負担します。この段階で50%です。残りの50%をそこに居住する40歳以上の人全員で負担しているのです。

脳卒中など後遺症が起きやすい疾患患者を多く抱えている地域では保険料が高くなり、日頃から住民の健康維持に取り組む地域では保険料が低めになる傾向の様です。平均年齢層が若く、介護利用者が少ない都道府県はそれだけ負担する額も少なくてすむ仕組みです。

介護保険制度は、相互扶助の精神でそこに居住する人々がお互いに支え合って成り立っています。



## 原子力防災訓練を終えて

事務部 高井美佳

11月14日に原子力防災訓練を行いました。当院は、島根原子力発電所から公称1.4キロ、最も近くに立地する医療機関です。有事の際は、当院を含め要援護者施設では、東日本大震災の教訓を活かし、放射能の侵入を防ぎ得る施設(病院)内に一旦「屋内退避」をし、その間、行政を通じて受入れ先の医療機関や、搬送手段を確保し、最終的には順次受入れ先の医療機関等へ避難することが

想定されており、それに基づき訓練を行いました。訓練は想定や前提にたつてシナリオを作り行動します。実際の災害が発生すれば、必ずしも訓練での想定や前提通りに物事が進まないこともあるかもしれません。しかし日常から諸災害の教訓から学び、リスクを想定し、それに基づいて実際動いてみることは、万一の際に何らかの形で生きるのではないかと考えています。ご指導、ご支援、ご協力をいただいた全ての関係者の皆様にご場をお借りして御礼申し上げます。

## この子はだ〜れ

①

答えは8ページ

②



## 鹿島レンジャーに学ぶ③

「過去を振り返るだけでなく未来へ挑戦する」の巻

診療部 医師 戸田博敏



## 前回までのあらすじ

平成20年3月 鹿島レンジャーは第5回院内研究大会で鮮烈にデビューした。

同大会で、小鯖覚先生(当時院長、現理事)が「鹿島病院の唄」を介護職1君のギター伴奏で熱唱、職員に初めて披露された。

同年6月 小鯖先生、悪性リンパ腫を発症、松江赤十字病院に入院、厳しい闘病生活始まる。

同年7月 鹿島病院新人歓迎会会場に闘病中の小鯖先生から全職員宛にメッセージが届く。

## ♪年輩いた人の心に あなたの声がとどく

…(鹿島病院の唄 1番 歌詞より)

平成20年7月、ホテルH、屋上ビアガーデン、鹿島病院新人歓迎会、小鯖先生から届いたメッセージは「鹿島病院には若さが足りない」。大月看護部長(当時)から伝えられました。

それが問題意識となりました。先生のこの思いに何とかして応えられないかと。

問題意識は潜在意識となり、あるTV番組で記憶違いでなければ、久石さんという方(宮崎駿監督アニメーション映画の音楽を担当されたことで有名)の言葉。「ただ過去を振り返るだけではだめ、やるからには挑戦でなければならない。」に出会いました。

《過去:平成20年3月の院内研究での小鯖先生の「鹿島病院の唄」熱唱》を振り返るだけでなく、《未来:「鹿島病院の唄」を全職員で大合唱する》へ挑戦する。それを若さと呼んでも良いのではないかと。先生は次回の院内研究発表大会(平成21年3月)には必ず復帰されていると信じて。

問題意識を持ち続ければ、偶然は必然に変わる。

## ♪ときめいて鹿島 きらめいてこの病院(いえ)…

同年8月、大月さん、1君を含む数人に大合唱の案を持ちかけました。小鯖先生にサプライズをプレゼントしよう。そしてそれは我々へのサプライズにもなるのではないかと。

当然、合唱練習はどうやってやる?頼りになるのは、小鯖先生が熱唱されたDVD録画だけです。CDがあればというのは自然な発想です。「CDを作る」、言うのは簡単だが、具体的にどうやったら出来るものやら?なにしろ、言い出しっぺが音楽活動

もしたことの無い音痴ですから見当もつきません。又、著作権のある先生に内緒でCDを作成するのは問題がある…

大月さんがいとも簡単に「CD作ろう」と言ってくれました。もう、ここは小鯖先生はきっと喜んでくださるに違いないと覚悟するよりなし。CDは大月さんのご尽力で完成しました。歌島さん(スタジオゆにわ代表)は大月さんの知人でした。私も看護部長室だったと思いますが、歌島さんにお会いさせていただき、CD作成の趣旨を説明させていただきました。

11月中にCDは完成しました。歌島さんは小鯖先生熱唱DVD録画から、採譜、編曲され、合唱曲に仕立て上げられました。大月さんによると、歌島さんは作成にあたりDVDを何度も見直されたそうです。大月さんは「聴いてみて、感動すーけん、やっぱり唄(そのもの)がいいけんだわ」といって聞かせてくれました。有志数人と一緒に聞きました。

12月4日CDは森脇(旧姓)里香先生(\*1)に託され小鯖先生のもとに届けられました。私から先生に内緒で勝手にCDを作成してしまったお詫びの手紙と、大月さんからのメッセージを添えました。

この歌を聞きながら、口ずさみながら  
私たちは鹿島病院で  
先生のお帰りをみんな待っています。

(当時の看護部長からのメッセージ)

果たして小鯖先生に喜んでいただけるか不安でしたが、数日後、感激したとのメールをいただき、ほっとしました。小鯖先生にとってCD完成は最初のささやかなサプライズとなりました。この時点で、鹿島病院の唄大合唱は先生にはまだ秘密のプロジェクトです。

## ♪あなたのやさしさが

この街を覆い尽くすまで…

坂之上副院長、下瀬事務部長、田野リハビリテーション部長(現薬剤部長)も加わっていただき活動は、鹿島病院全体の取り組みとなってゆきます。

\*1 中村(旧姓 森脇)里香 先生:小鯖覚先生との共著に「高齢者医療の最前線 小鯖覚 森脇里香 三和書籍 2005年」がある。



入 職

- ①部署
- ②趣味・特技は何ですか？
- ③好きなもの・好きなことを教えてください。
- ④一言ご挨拶をお願いします



中村久美子

看護部看護師

- ①看護部 4F
- ②ガーデニング・アロマ
- ③わんちゃんと遊ぶこと
- ④患者さんの気持ちによりそって、よりよい看護ができるよう努めていきたいです。よろしくをお願いします。



藤井 由佳

看護部介護福祉士

- ①看護部 4F
- ②読書
- ③マンガを読むこと。
- ④サービス付きの高齢者向け住宅に勤めていた期間が長く、特養では短い間しか介助をする事ができなかったため、早く患者様の身のまわりのお手伝いができるようになりたいです。病院勤務は初めてなので色々ご迷惑をおかけするかもしれませんが、よろしくお願します。



八幡 明子

- ①在宅サービス部通所リハビリテーション
- ②ランチに行く事・読書
- ③ショッピング・ミステル
- ④デイサービスで働くのは初めてで、戸惑ったり、ご迷惑をおかけする事も多々あると思います。笑顔で皆さんと楽しい日々を送れるようがんばりたいと思いますので、よろしくをお願いします。

退 職 藤原保子（看護部）

この子にだ〜れ

答え



栄養課 狩野晋利さん  
長女 未蓮 (みほる)ちゃん  
次女 美美加 (みみか)ちゃん  
リハ課 吾郷竜一さん  
長男 優志朗 (ゆうしろう)くん

平成29年1月8日  
永年勤続表彰者

- 勤続20年 万代 和枝
- 勤続15年 川本 弘信 松尾 三美 中川 豊 男松身依子  
南 祐子 安達久仁夫 高見 憲 安食 真里  
宮廻 由紀
- 勤続10年 松浦千加子 今岡 祐子 福村 智之 澤 幸子
- 勤続5年 浦栢真基子 木村美貴子 勝手 美里 串崎 瞳  
藤原 法文 角田 悠 森山 雅人 小松 章平  
曾我 伸也 楫谷 真弥 岩田ひとみ 曾田 瑠衣  
原田 絵里 陰山 恵美 野津裕美子 内田香寿美  
門永 由香



職員数

職 種	職員数
医 師	6名
薬 劑 師	3名
P T	21名
O T	19名
S T	5名
看護部(准看護師)	80名
臨床検査技師	2名
診療放射線技師	1名
社会福祉士	5名
介護支援専門員	6名
介護福祉士(介護職員)	73名
歯科衛生士	2名
管理栄養士(栄養士)	4名
調 理 員	10名
事 務 職 員	17名
合 計	254名

29.1.1現在

鹿島病院

①外来部門

診療日数63日	1日平均入数
延外来延患者数	1,225人 19.4人/日

②病棟部門

②-1：2F病棟（特殊疾患病棟）

診療日数91日	1日平均入数
延入院患者数	5,176人 56.9人/日
レスピレーター装着延患者数	2,220人 24.4人/日
リハビリ延実施数	1,593単位 17.5単位/日

②-2：3F回復期リハビリテーション病棟  
（回復期リハビリテーション病棟）

延入院患者数	4,294人	47.2人/日
脳血管疾患リハビリ	12,139単位	133.4単位/日
廃用症候群リハビリ	2,867単位	31.5単位/日
運動器リハビリ	12,270単位	134.8単位/日
呼吸器リハビリ	単位	0.0単位/日

②-3：4F病棟（医療療養病棟）

延入院患者数	5,020人	55.2人/日
脳血管疾患リハビリ	446単位	4.9単位/日
廃用症候群リハビリ	1,501単位	16.5単位/日
運動器リハビリ	1,522単位	16.7単位/日
呼吸器リハビリ	859単位	9.4単位/日
がん患者リハビリ	278単位	3.1単位/日

②-4：短期入所療養介護

ショートステイ延利用者数	25人	0.3人/日
--------------	-----	--------

公仁会事業報告

H28.9.10.11月

患者重症度指数 強化項目 リハビリ数

在宅サービス部

①通所リハビリ「やまゆり」

稼働日数78日	1日平均利用者数
通所リハビリ延利用者数	2,502人 32.1人/日
短期集中リハビリ実施数	224単位 2.9単位/日

②鹿島病院デイサービスセンター

稼働日数79日	1日平均利用者数
通所介護延利用者数	1,732人 21.9人/日

④訪問看護「いつくしみ」

稼働日数64日	1日平均利用者数
訪問看護延利用者数(医療)	224人 3.5人/日
訪問看護延利用者数(介護・看護)	554人 8.7人/日
訪問看護延利用者数(医療・介護・リハビリ)	213人 3.3人/日

⑤鹿島病院やまゆり居宅介護支援事業所

稼働日数60日	月平均利用者数
延ベケアプラン策定数	436人 145人/月
延ベ介護予防ケアプラン数	63人 21人/月





## 医療法人財団公仁会 基本理念

私たちは、仁愛をもって「医療と介護サービス」を提供し、地域に貢献します。

## 医療法人財団公仁会 基本方針

- ① 鹿島病院を中心に地域と連携して、良質な慢性期医療を確立します。
- ② 患者様・利用者様の人権を尊重し、思いやりとつくしみの心で接します。
- ③ 技術や知識向上のため、たゆまぬ努力を行ないます。

## 医療法人財団公仁会 行動指針

- ① **Safety** …安全を最優先します。
- ② **Speedy** …変化に能動的に挑戦します。
- ③ **Service** …おもてなしの精神で接します。

## ▶ 医療法人財団公仁会中期ビジョン2016

質の高い回復期・慢性期医療及び在宅を支える医療を提供し、  
松江橋北地域の地域包括ケアシステムの中核を担う医療機関となる。

## 1. 良質な回復期・慢性期医療の提供(病院機能)

- (1) 回復期医療の充実
- (2) 良質な慢性期医療の提供
- (3) 質の高いリハビリテーションの提供
- (4) 看護体制の充実と強化

## 2. 在宅生活を支える医療の展開(在宅サービス機能)

- (1) 良質なリハビリテーションの提供
- (2) 良質な在宅生活支援サービスの提供

## 3. 地域連携 及び 地域貢献

- (1) 病院連携、病診連携、地域(行政(県・市・保健・福祉・介護)、地区)連携

- (2) 予防医療や介護技術を地域へ普及
- (3) 地域への情報発信

## 4. 人材の確保 及び 育成

## 5. 医療安全・院内感染対策の推進

## 6. 医療サービスの質の改善への取組み

- (1) 機能評価の評価に基づく継続的改善活動
- (2) 臨床指標(Clinical Indicator)の検討・活用
- (3) 患者満足度向上の組織的取組み
- (4) 施設・設備・環境の整備と充実

## 7. 新電子カルテシステムの検討・移行準備

## ▶ 患者様・利用者様の権利宣言

平成21年10月1日改正

## 1. 個人の尊厳

患者様・利用者様は、ひとりの人間として、その人格・価値観などを尊重されます。  
患者様・利用者様ご自身が意思表示や意思決定できない場合は、ご本人の尊厳を最優先にご家族と当財団のスタッフでよく話し合い決定していきます。

## 2. 平等で最善の医療と介護サービスを受ける権利

患者様・利用者様は、平等で安全に配慮された最善の医療・介護サービスを受ける権利があります。

## 3. インフォームド・コンセントと自己決定権

患者様・利用者様は、医療と介護サービスに関することについて、わかりやすい言葉や方法で説明を受け、その内容を十分に理解した上で選択・同意し、適切な医療・介護サービスを受ける権利があります。

また医師から提案された医療・介護サービスに同意できない場合は、拒否することもできます。拒否することで不利益をこうむることはありません。

その選択にあたっては、他の医療・介護サービス機関の意見を聴く(セカンドオピニオン)ことができます。

## 4. 情報に関する権利

患者様・利用者様は、当財団で行われたご自身の医療・介護サービスに関する情報の提供を受ける権利があります。

## 5. プライバシー及び個人情報の保護

患者様・利用者様は、私的な生活を可能な限り他人に侵されない権利があります。医療・介護サービスの過程で得られた個人情報は、個人の秘密として厳守され、患者様・利用者様の承諾なしに開示されません。

## ▶ 鹿島病院臨床倫理の方針

平成22年1月1日制定(平成22年1月6日：部長会承認)

1. 患者様の人権を尊重するとともに、患者様と医療従事者が協力して公正かつ公平な医療を提供します。
2. 患者様ご自身が意思決定できない場合は、ご家族と十分に話し合い治療方針等を決定します。
3. 終末期治療方針は、医学的に妥当で適切な医療を患者様・ご家族の同意の上、多職種よりなるケアチームで決定します。
4. 患者様の信条や価値観を尊重した医療を提供します。
5. 臨床研究は、倫理的審査を行った上で患者様・ご家族の同意に基づき実施します。



# 大会報告

## 第82回病院対抗

### バレーボール大会に参加しました Uハ部 石橋莉加子



10月22日(土)、出雲市カミアリーナで行われた第82回病院対抗バレーボール大会に参加しました。男子チームは島根大学医学部附属病院・出雲市立総合医療センター、女子チームは加藤病院・安来市医師会病院と対戦しました。昨年の大会では勝利を収める事が出来ず、悔しい思いをしました。そのため、大会3ヵ月前からは練習量を増やし大会に臨みました。練習の成果もあり、男女ともに未経験者もいる中、男子チームは1勝、女子チームは1セット取る事が出来ました。昨年より試合中の集中力も増し、気持ちの入ったゲームをする事ができ、昨年より良い結果を収める事が出来ました。これからは目標を更に大きく持ち練習を頑張っていきたいと思っております。ご声援ありがとうございました。

## 第2回中海・宍道湖レガッタ 兼 第11回中海レガッタに参加しました

### REGATTA

平成28年10月9日(日)に第2回中海・宍道湖レガッタ兼第11回中海レガッタが松江市美保関町万原特設ボートコースで開催され、鹿島病院からは2チームがミックスの部に参加しました。鹿島病院Wild\$Dazは優勝、鹿島病院DRAGON-Fly(mix)も2位となり、今年度最後の大会をよい成績で終わることができました。来年も、また、いろいろな大会に参加していきたいと思っております！



## お餅つき

看護部 岸上倫美



12月14日に毎年恒例の鹿島病院もちつきを開催しました。今年もたくさんの患者様にご参加いただき、臼と杵を使った、もちつきの実演、つきあがった餅を丸めていただくなど普段の生活ではあじわえない一時を過ごしていただけたと思います。中には車椅子から立ち上がり、石臼の餅に向かって杵を振り下ろされる患者様もおられ、会場も笑顔と熱気で包まれていました。限られた時間ではありましたが、節目の行事という事で、患者様にも季節感をあじわっていただけたと思います。関係各所の皆様もご協力いただきありがとうございました。大きなトラブルもなく、今年も年末行事を行うことが出来ました。来年もお楽しみに。

## 編集後記

新しい年を迎え、皆様に幸多いことをお祈りします。  
ときめき鹿島はこの春から新バージョンでお送りします。  
はっとしてほっとしてにこっとして元気が出るような紙面づくりに広報委員一同頑張っていますので今年もどうぞよろしくお願いいたします。  
2017年 新春 s:s

■編集・発行・責任者：広報委員会委員長

医療法人財団公に会 〒690-0803 島根県松江市鹿島町名分243-1  
e-mail ksm@kashima-hosp.or.jp http://www.kashima-hosp.or.jp/  
鹿島病院 TEL(0852)82-2627(代) FAX(0852)82-9221  
訪問看護ステーション(いつくしみ) TEL・FAX(0852)82-2640  
やまゆり居宅介護支援事業所 TEL・FAX(0852)82-2645  
通所リハビリテーション(やまゆり) TEL・FAX(0852)82-2637  
鹿島病院デイサービスセンター  
TEL(0852)82-2665(代) FAX(0852)82-9221

■印刷元 さんきゅう印刷

